

現代アーティスト 大小島真木さん



上・展示する天井画 パネルに布、鉛筆、アクリル
© Maki Ohkajima All Rights Reserved. Projected by Higashikurume Art Project
下・制作中の大小島さん(秋田さん宅にて)

湧水の守護神として東久留米の南沢氷川神社拜殿に壮大な天井画が展示される。東久留米市民による「東久留米アートプロジェクト」が主催するもので、地元で生まれ育った、現代アーティスト、大小島真木さんが描いた。

東久留米アートプロジェクトの活動

「東久留米アートプロジェクト」はアートの力を通して、東久留米に新たな文化を創造し、子どもたちに地域のよさを伝えていきたいとパン屋を営む宮沢ロミさんの呼びかけに集まった地元ゆかりの6人のメンバーからなるプロジェクト。「昨年は写真家、松本路子さんの写真展「創造する女性たち」を開催した。

2回目となる天井画の企画にあたり



ては、プロジェクトメンバーと今回共催を決めた南沢氷川神社そして大小島さん、それぞれの東久留米への思いがピタリと合致して実現した。根源に生きとし生けるものの「いのち」を感じることができ、大小島さんの絵。それは太古から湧き出る水があり、いのちを育て、人々の心の拠りどころとなっていた南沢氷川神社の鎮守の森と響き合うもの。「神社を身近な存在として、人が集まる場にした」という



清流と緑が織りなす南沢氷川神社



アトリエでの大小島さん
主な受賞歴：2009年ワンダーウォール賞、2014年VOCA奨励賞、TERADA AWARD賞

宮司の栗原さんのテーマに沿っていた。そして何より、大小島さんは子どもの頃から湧水地に家族と水を汲みに来ていて、「湧水の水で育った」という。鎮守の森は身近で大好きな場所だった。神聖な神社の拜殿に天井画を展示するという初の試み。それは神社の氏子中の「新しいことを静かに見守りたい」という裏付けがあつてこそのこと。こうして東久留米を愛する人々がつなごうとした、類稀なる展覧会が開催される。

20枚のパネルからなる天井画

天井画を描いた、大小島真木さんは28歳の気鋭のアーティスト。ものごとろついた頃から絵を描いていた。「両親が共働きのため家にいなかったため、いつも絵に向き合っていました」という。中学時代も美術部で女子美術大学付属高校から大学へ。2011年女子美術大学大学院修士課程卒業。ペインティング、壁画、映像などを使って表現活動。日々制作の中で、女子美大の非常勤講師も勤める。海外でも、インドの学校4校で壁画を制作するなど活躍。ポージランドやメキシコでも滞在制作をしてきた。今回のプロジェクトは、東久留米の自然への深い思いを持つ企画に共感して参加した。

今回の天井画の全容を初めて見せてもらったのが、同プロジェクトのメンバー秋田茂良さんのお宅のこと。農

湧水の里「南沢氷川神社」に 天井画を描く

11/25 ~ 12/6 限定公開

家の広い座敷いっぱい、ジグソーパズルのピースを並べるように、20枚のパネルを置いていく。全体は316cm×490cmもの大きさがあり、壮観なもの。大小島さんのアトリエでは全体を見ながらの最終作業ができないので、この日の調整になったという。

20枚のパネルも大小島さんと秋田さんがホームセンターで材料を買い、自ら製作したもの。これらのパネルを神社の拝殿天井に設置して、期間限定で公開するものだ。

自然と人間の営みを表現する

光のように感じられる空白の円に向かって、数多のいきものや木々が融合しあう天井画「生きとし生けるものたちの饗宴」――幼少の頃から、飲んでいた湧き水は確かに自分の身体を作ってきただろう。自分の血肉は水と土と太陽とたくさんの生きものたちによって、抱き抱かれ生きていく。この星に共存する生きものたちと、木々と共に饗宴するための歌を、絵を通して歌いたい――これが作品のメッセージだ。

「絵を通して、自分の記憶とリンクしてみたい」という。

皆が大切にしてきた湧水と鎮守の森、絵を通して、若い人たちが地域の良さを話し合う場になればと思う。それは彼女自身がプロジェクトメンバーとミーティングを重ねるうち、東久留

米のよさがはっきりとみえてきたことにもあるのでは。そして、メンバーとはまだ1年足らずの付き合いながら、同じ目的を持つ仲間として、確かなつながりができた。その地域力が今回の企画をいっそう魅力あるものになっている。

「自分の中の哲学をツールとして表わしたものだ」という通り、彼女が表現する対象物は独自の思考と想像力に溢れている。太古の時代から人間も動植物と同様に生命の連鎖の中で生きている。それは過去から未来へとつながる、大きな流れの一部分で人間もその中にある。自身のフィルターを通して、絵が物語る。一度見たらきつと脳裏に残る絵になるだろう。

「海外の人たちと交流していると、日本の自然がいかに特殊で、世界から見ても興味に満ちた島国であるか分かってきます。豊かな生態系、当たり前のようにある水と森ですが、このような場所、人と自然の営みが続いてきた東久留米がすごい土地なのだ、改めて気づきました」

一見すると、快活で笑顔がチャーミングな普通の女性。けれども発する言葉に個性がきらめく。作品に対する躊躇のない明快な語り口。説得力ある言葉が湧水のように溢れ出てくる。描いているときでさえも、話を聞くに

つれ、才能のスケールの大きさと、「この人はこれからどこへ向かうのか」という期待と無限の可能性を感じさせる。将来、世界を舞台に発信するアーティストになることだろう。

「神社の拝殿の中、大小島さんの絵から伝わってくるものを、御神前で静かに味わっていただきたい」と栗原宮司。宮沢さんは「二人でも多くの人にみてほしい、特に子どもたちに感じてほしいですね。これからもこの地域の魅力を市内外に発信していきたい」と話します。

同プロジェクトでは企画に賛同してくれる《森びと》を募集中。作品制作費、運営費などの協力を募っている。

《天井画公開日》

11月25日(水)～12月6日(日)

10時～16時30分 入場無料

(*5日/14時～15時:ワークショップ)

16時～17時30分:コンサート)

南沢氷川神社(東久留米市南沢3-5-8)

*ご祈禱などの神事がある時は鑑賞できない場合があります。

(問) 042-474-0139 (プチ・フル内)

.....
(大小島真木さんの個展案内)

11月12日(木)～12月17日(木) (土・日・祝 休館)

12時～17時 入場無料

第一生命ギャラリー(千代田区有楽町1-13-1)

☎ 050-3780-5776